

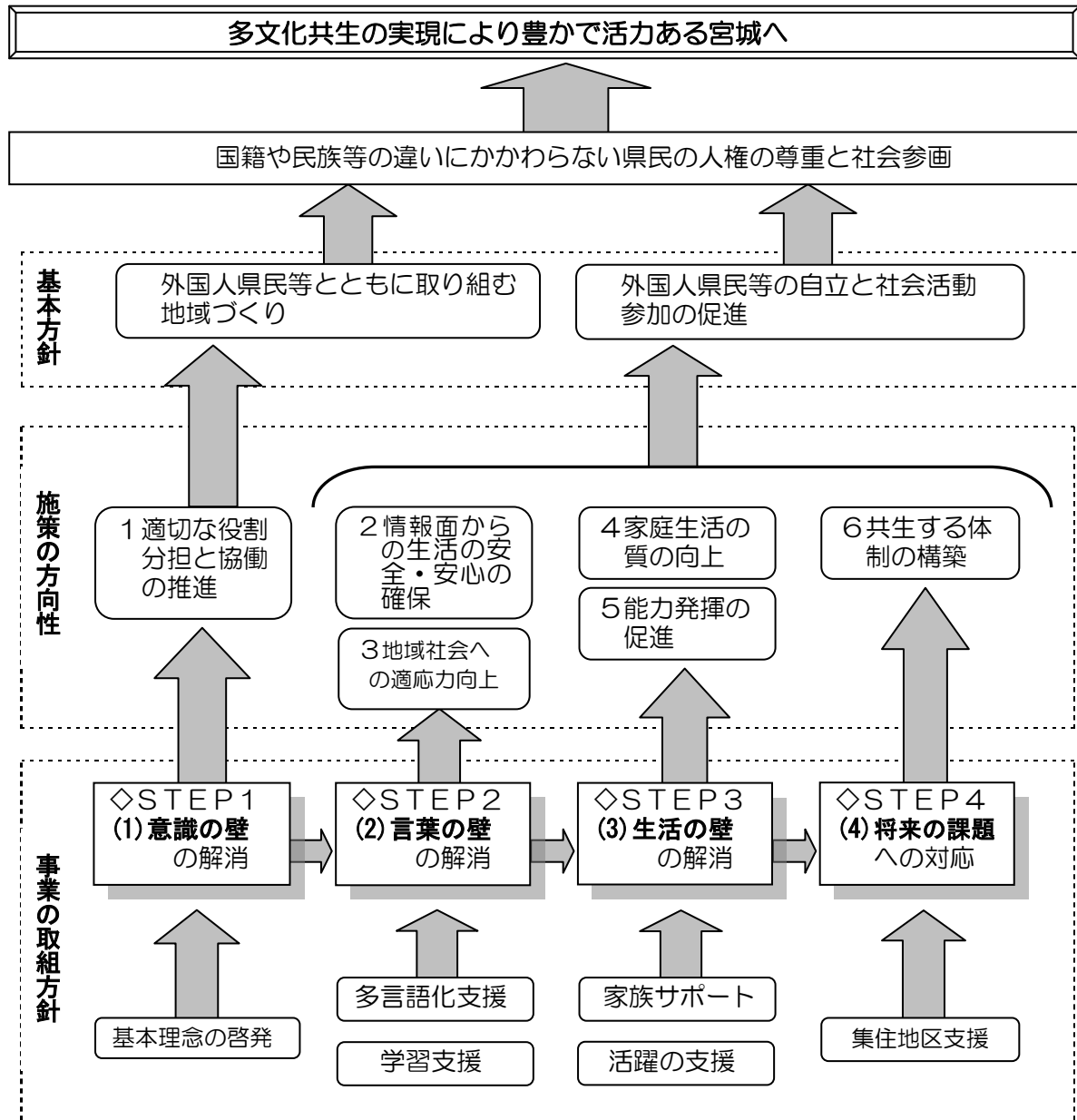
平成24年度多文化共生社会の形成の推進に関して講じた施策
【多文化共生社会の形成の推進に関する条例第21条に基づく報告】

平成25年6月
宮 城 県

目 次

I	基本方針と多文化共生施策の方向性	1
II	平成24年度に講じた多文化共生施策	
1	「意識の壁」の解消	
(1)	シンポジウム開催事業	2
(2)	啓発ツール作成事業	3
(3)	審議会運営事業	4
(4)	市町村等研修会開催事業	4
(5)	外国人県民アンケート調査事業	5
2	「言葉の壁」の解消	
(1)	災害時通訳ボランティア整備事業	6
(2)	防災ハンドブック作成事業	7
3	「生活の壁」の解消	
(1)	外国人相談センター設置事業	8
(2)	多文化共生研修会開催事業	9
III	宮城県多文化共生社会推進計画の評価指標における進捗状況	10

I 基本方針と多文化共生施策の方向性（宮城県多文化共生社会推進計画より）



【参考1】多文化共生社会の定義（条例第2条関係）

「多文化共生社会」とは、国籍、民族等の異なる人々が、互いに、文化的背景等の違いを認め、及び人権を尊重し、地域社会の対等な構成員として共に生きる社会をいう。

【参考2】議会への報告等（条例第21条関係）

知事は、毎年度、多文化共生社会の形成の推進に関して講じた施策を県議会に報告するとともに、公表するものとする。

Ⅱ 平成24年度に講じた多文化共生施策

1 「意識の壁」の解消

【事業の取組方針】

「意識の壁」の解消に向け、広く基本理念の普及・啓発を行い、県民や関係機関等との推進体制の整備を図る。

(1) シンポジウム開催事業（事業費：186千円）

角田市との共催で「多文化共生シンポジウム in 角田～東日本大震災の体験をとおして日本語学習の重要性を考える～」を開催した。外国人の東日本大震災の経験から再認識した「自助」や自己実現のための日本語学習の重要性、地域に暮らす外国人の活動について、基調講演、パネルディスカッションをとおして伝えることにより、県民の多文化共生に関する理解促進を図った。

■日時・場所：平成24年12月9日（日） 午後1時00分～午後3時30分
角田駅コミュニティプラザ(オークプラザ)

■来場者数：約50人

■プログラム：

□現状報告：「宮城における多文化共生の現状」

(公財)宮城県国際化協会参事兼企画事業課長 大村昌枝氏

□基調講演：「東日本大震災から外国人が学んだこと～日本語教室はなぜ必要なのか～」

宮城学院女子大学国際文化学科教授 J. F. モリス氏

□パネルディスカッション：「外国人県民の自助・自己実現の力を培う日本語学習

～東日本大震災の体験から～」

・コーディネーター：大村昌枝氏

・コメンテーター：J. F. モリス氏

・パネリスト（4人）：

登米日本語講座・家族会会長 小野寺正幸氏

フィリピン人日本語教室主宰 佐々木アメリア 氏

ディサービスセンターこもれびの里管理者 張衛玲氏

気仙沼市震災復興・まちづくり推進課気仙沼市小さな国際大使館国際交流員 村上伸子氏





(2) 啓発ツール作成事業（事業費：275千円）

多文化共生の基本理念の普及啓発を図るため、パネルやクリアファイル、みやぎ外国人相談センター広報用カードを作成した。これらは、シンポジウムや研修会で配布や掲示を行うことなどにより県民に周知するとともに、外国人県民アンケート調査対象者に対し相談センター広報用カードを送付することにより、外国語による相談先について多くの外国人県民への周知を行った。



(3) 審議会運営事業（事業費：180千円）

宮城県多文化共生社会推進審議会を開催し、平成23年度に講じた施策について審議を行ったほか、平成24年度実施事業等についての御意見をいただいた。今後も委員の方々からの助言や意見について施策に反映していくことができるよう努めていく。

【第1回】：平成24年 7月26日（木） 委員出席：8人

【第2回】：平成25年 3月22日（金） 委員出席：8人

■委員名簿（敬称略・五十音順）

任期：平成23年12月1日～平成25年11月30日

職 名	氏 名	備考
仙台市立八幡小学校教諭	阿 部 実智代	
東北大学大学院教育学研究科准教授	李 仁 子	
宮城教育大学附属国際理解教育研究センター教授	市 瀬 智 紀	会 長
宮城県商工会連合会専務理事	加 藤 亨 二	
行政書士金東暎事務所代表	金 東 暎	
みやぎ外国人相談センター相談員	小 関 一 絵	
東北大学国際交流センター教授	末 松 和 子	副会長
宮城労働局職業安定部長	藤 浪 竜 哉	
前宮城県女性相談センター次長	古 山 しづ江	
公募委員	宮 澤 イザベル	

■会議の様子



(4) 市町村等職員研修会開催事業（事業費：19千円）

市町村職員等の多文化共生に関する理解促進と施策推進を図るため、市町村、国際交流協会等職員を対象とした研修会を開催した。

多文化共生に関する講義や、市町村で実施したアンケート実施の結果報告により、基礎的な知識と、実際の市町村の取組や外国人県民の現状について学習した。

■日時・場所：平成24年9月12日（火）午後1時30分から午後4時まで

宮城県自治会館206会議室

■参 加 者：県内市町村、県内国際交流協会職員26人（9市6町3協会）

■内容

①講演「多文化共生社会の可能性と課題—行政の役割—」

東北学院大学経済学部共生社会経済学科准教授 郭 基煥氏

②報告「多文化共生計画の策定に向けた外国人の被災状況等に関するアンケート調査の活用」

石巻市企画部市民協働推進課課長補佐（交流推進グループリーダー）

道家 由美子氏

■研修会の様子



(5) 外国人県民アンケート調査事業（事業費：496千円）

多文化共生社会推進計画の改訂及び今後の施策の参考とするため、外国人県民に対するアンケート調査を実施した。調査票送付1,870人に対し、429人の有効回答があり、日常生活、言語、育児・教育、労働、防災等の11の分野についての状況や意識に関する集計、分析を行った。アンケート結果については広く公表し、多文化共生推進計画や施策に反映させていく。

■調査期間

平成24年11月22日～平成24年12月20日

■調査対象者

県内の20歳以上の外国人県民の無作為抽出による1,870人（抽出率13.4%）

■有効回答数

429人（回収率22.9%）

■調査票言語

日本語（ふりがな付き）、中国語（簡体字）、韓国・朝鮮語、英語

■調査項目

1 基本属性（9問）	8 労働（6問）
2 日常生活の満足度（2問）	9 社会生活一般（7問）
3 言語（5問）	10 防災（15問）
4 情報（1問）	11 行政（3問）
5 居住（2問）	12 自由意見
6 医療・福祉（2問）	
7 育児・教育（8問）	
（全61問）	

2 「言葉の壁」の解消

【事業の取組方針】

「言葉の壁」の解消に向け、多言語化支援を行うとともに、外国人県民等への学習支援を図る。

(1) 災害時通訳ボランティア整備事業（事業費：331千円）

（公財）宮城県国際化協会への委託事業として実施しており、大規模災害発生時に、県や市町村等からの要請に応じ速やかに通訳を派遣できるよう、通訳ボランティアの確保・養成を行い、平成24年度末までに118人の通訳ボランティアを確保し20言語での対応が可能となった。

■ボランティア派遣の実績

実績内容：災害ボランティアセンターで使用される外国人ボランティア対応の資料の翻訳

派遣者：のべ10人

■研修会の開催

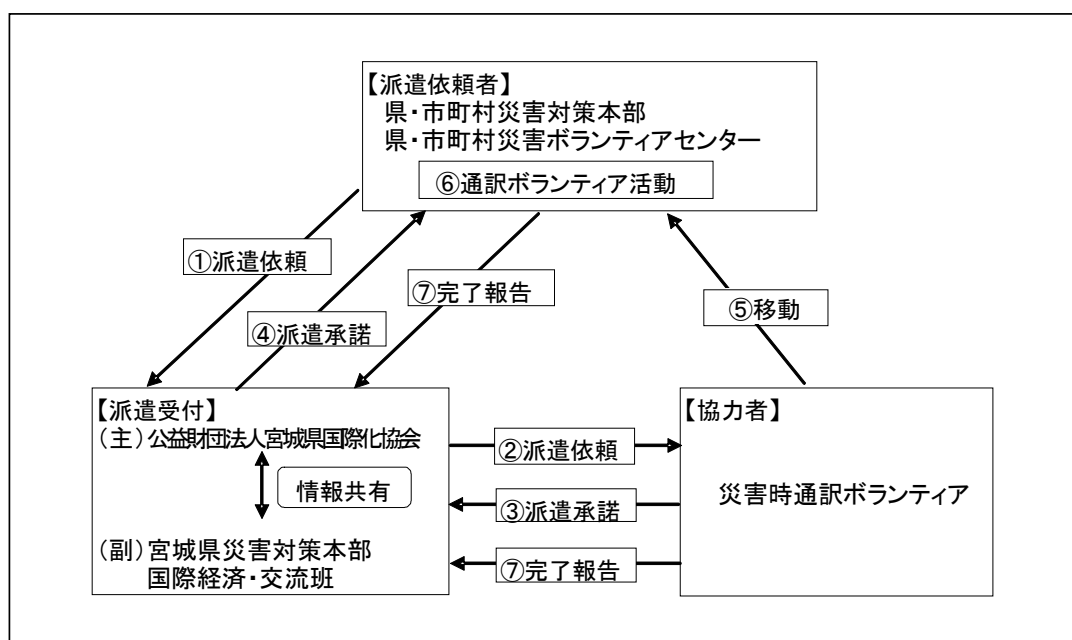
災害時通訳ボランティア・県国際化協会外国人支援通訳サポーター合同研修会

「東日本大震災・・・語学人材はどう活かされたか？」平成24年9月22日開催

■通訳ボランティア対応可能言語（20言語）

英語、中国語、韓国語、インドネシア語、ウクライナ語、ウルドゥ語、スペイン語、タイ語、台湾語、タガログ語、ドイツ語、トルコ語、ヒンディ語、ビルマ語、フランス語、ベトナム語、ペルシア語、ポルトガル語、モンゴル語、ロシア語

■派遣フロー図



■研修会の様子



(2) 防災ハンドブック作成事業（事業費：678千円）

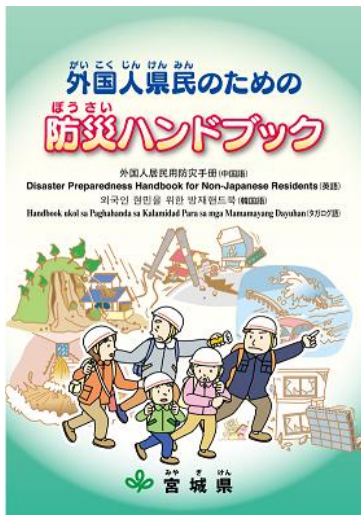
防災関連の多言語化支援として、外国人県民の「自助」の基本となる防災意識の啓発、防災知識の醸成を目的とした防災ハンドブックを作成、配布した。

■内 容：地震や津波、土砂災害に関する基本知識、災害時に使用される日本語や災害時に必要な備蓄品・持出品等【A5判，52ページ】

■対応言語：日本語（ふりがな付き）、英語、中国語、韓国語、タガログ語

■作成部数：5,000部

■配布場所：各市町村の住民登録窓口、多文化共生担当課、各市町国際交流協会、入国管理局、日本語講座等



Ⅲ 災害が起きたら					
1 覚えておくと役に立つ知識					
(1) 地震と津波に備えるために ~日本語単語・フレーズリスト~		Ⅲ 災害発生時 1 地震発生時 1) 关于地震和海啸灾害用语 ~日本語単語・災害词汇表~	Ⅲ When a Disaster Occurs 1 Useful Disaster Knowledge (1) Be Prepared for Earthquakes and Tsunami: Japanese Word/Phrase List	Ⅲ 재해가 발생하면 1 알고 있으면 도움이 되는 지식 (1) 지진과 쓰나미에 대한 대어를 위하여 ~일본어 단어·문구 목록~	Ⅲ Kapag naganap ang kalamidad 1 Mga kaalamang makakatulong at dapat tandan (1) Mga listahan ng wikang hapon na maaaring gumamit bilang paghahanda para sa lindol at tsunami.
① 地震・津波発生時によく使われる日本語	② 地震、海啸発生時用語	③ Phrases used during an earthquake/tsunami	④ 지진, 쓰나미 발생시 잘 사용되는 일본어	⑤ Mga wikang hapon na malinis gamitin kapag may lindol at tsunami.	
「危ない!」(危ないですよ) "Abunai!"	「危険!」	"Watch out!"	「 위험해!」(위험해요)	「 Delikado!」	
「逃げろ!」(逃げてください) "Nigero!"	「快速!」	"Run Away!"	「 도망가라!」(도망 가세요)	「 Magsilikas!」	
「助けて!」(助けてください) "Tasukete!"	「救命綱!」(請救我!)	"Help!"	「 도와줘!」(도와 주세요)	「 Tulong!」	
「早く!」(早くしてください) "Hayaku!"	「快点!」(請快一点!)	"Quickly!"	「 빨리!」(빨리 하세요)	「 Dali!」	
「走れ!」(走ってください) "Hashire!"	「快歩!」(請跑步!)	"Run!"	「 달리!」(달리세요)	「 Takbo!」	
「触るな!」(触らないでください) "Sawaruna!"	「触摸!」(請勿触摸!)	"Don't touch!"	「 만지지 마!」(만지지 마세요)	「 Huwag hahawakan!」	
「急いで!」(急いでください) "Isoide!"	「快点!」(請快一点!)	"Hurry!"	「 서둘러!」(서둘러 주세요)	「 Mag madali!」	
「海岸に近づかないでください!」 "Kaigan ni chikazuka naide kudasai!"	「請勿靠近海岸!」	"Stay away from the coast!"	「 해안(바닷가) 가까이 가지 마세요!」	「 Pakiusap, huwag kayong pumunta sa may dagat!」	
「高台へ避難してください!」 "Takasai ehi ninomitate kudasai!"	「請避難到地势高的地方!」	"Evacuate to a high ground!"	「 높은 곳으로 피난하세요!」	「 Magsilikas kayo sa mataas na lugar!」	
「崖から遠くに離れてください!」 "Umi kara tohokuni hanarete kudasai!"	「請远离海岸!」	"Move away from the ocean!"	「 바닷물부터 멀리 떨어져세요!」	「 Magsilikas kayo ng malayo sa dagat!」	
「落ち着いて!」(落ち着いてください) "Ochitsuite kudasai!"	「镇静!」(請鎮靜下來!)	"Stay calm!"	「 침착해!」(침착하세요)	「 Huwag kayong mag panic!」	
「避難してください!」 "Hinan shite kudasai!"	「請避難!」	"Please evacuate!"	「 피난하세요!」	「 Pakiusap, mag silkas po kayo!」	
「火事だ!」 "kajida!"	「着火了!」	"Fire!"	「 불이야!」	「 May sunog!」	
「大丈夫ですか?」 "Daijibu desuka??"	「没事吗?」	"Are you OK?"	「 괜찮습니까?」	「 Ok ka lang?」	
「痛い!」(痛いです!) "Itai!"	「疼!」	"That'll hurts!"	「 아파!」(아파요)	「 Masakit po」	

3 「生活の壁」の解消

【事業の取組方針】

「生活の壁」の解消に向け、外国人県民等の家族サポートを行うとともに、活躍の支援を図る。

(1) 外国人相談センター設置事業（事業費：3,234千円）

外国人県民やその家族等の日々の困りごと等の相談に対し、必要な情報提供や専門窓口の紹介など問題解決に向けたアドバイスを多言語で行う「みやぎ外国人相談センター」を設置し、(公財)宮城県国際化協会への委託事業として実施した。

下記のとおり、必要な情報提供や専門窓口の紹介など問題解決に向けたアドバイスを行い、外国人県民の不安解消、問題解決等に寄与した。

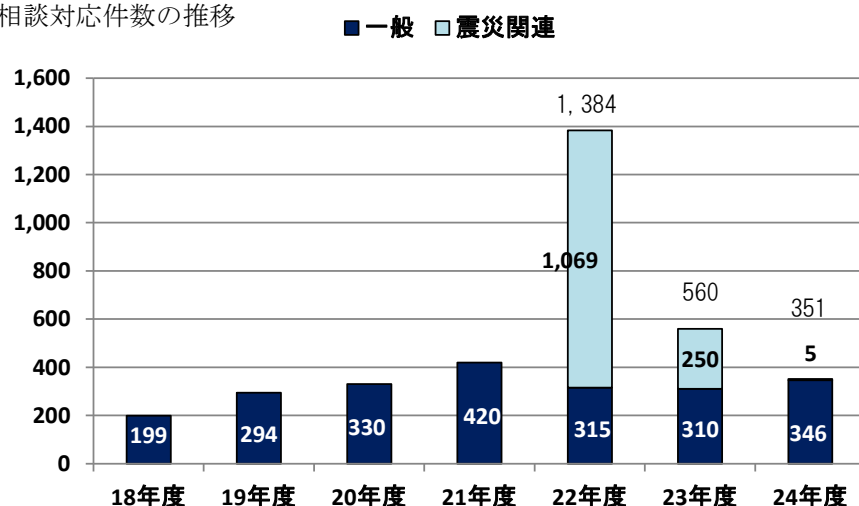
相談センターには、外国人県民、相談機関の担当者と、相談センター通訳者の三者での通話が可能な「トリオフオン」機能を付加した電話機を設置していることから、みやぎ県政だより、新聞の県からのお知らせにより広報を行い、一般県民、相談機関担当者に対する周知を図った。

■対応言語と対応曜日・時間

日本語、中国語、英語	：月曜日～金曜日	午前8時30分～午後5時15分
韓国語	：月曜日～金曜日	午前10時～午後4時45分
タガログ語	：水曜日	午前10時～午後4時45分
ポルトガル語	：金曜日	午前10時～午後4時45分

■相談対応件数 351件

相談対応件数の推移



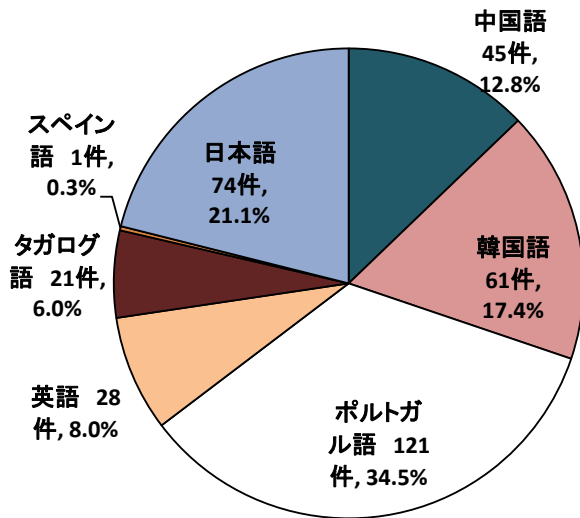
■男女別構成比

女性 305件(87%)、男性 46件(13%)

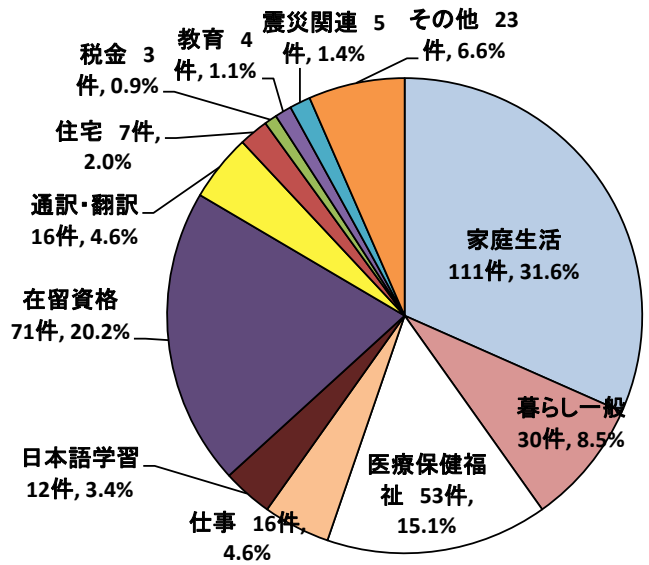
■相談手段

来所 35件(10%)、電話 316件(90%)

■相談対応言語



■相談内容



(2) 多文化共生研修会開催事業（事業費：1千円）

外国人等からの相談を受ける立場にある市町村、国際交流協会、相談センター等の担当職員の対応技能向上を図るため、「外国人等相談窓口研修会」を開催した。

相談者に対する傾聴技法と対応者のセルフケアに関する講義，グループディスカッションを通し，相談対応技術等を学習した。

■日時・場所：平成24年11月19日（月）午後1時30分から午後4時まで
 （公財）宮城県国際化協会研修室

■参加者：県内市町，県内国際交流協会職員等34人

■内容：

①講義「傾聴技法と支援者のセルフケア」

みやぎ心のケアセンター副センター長 山崎 剛氏

②グループディスカッション「相談業務について考える」

■研修会の様子



Ⅲ 宮城県多文化共生社会推進計画の評価指標における進捗状況

評価指標 1 県民意識調査「外国人も活躍できる地域づくり」に対して「重視する」と回答している割合

■指標説明

県が実施している「県民意識調査（選挙人名簿から県内在住の20歳以上の男女4,000人を無作為抽出）」で、「宮城の将来ビジョン」に掲げる33の取組のうち「26 外国人も活躍できる地域づくり」について、「重要」、「やや重要」と回答した人の割合。

■目標設定 H20：44.0% ⇒ H25：60.0%

【考え方】

「宮城の将来ビジョン」に掲げる33の取組のうち中分類「安心と活力に満ちた地域社会づくり」に属する他の13の取組の平均重視割合は77.5%であり、当該取組の44.0%からその中間値まで引き上げることを目標に設定

■進捗状況 H21：45.6% ⇒ H23：40.3%

【結果】

県民意識調査は隔年調査であり、前回調査（H21）より5.3ポイント低下した。

（H24に実施した県民意識調査は、復旧・復興の進捗状況に関する項目、宮城県震災復興計画等に関する調査のため、当該項目に関する調査は実施していない。）

評価指標 2 多言語による生活情報の提供実施市町村数

■指標説明

生活に関する情報を日本語以外の言語で提供している県内の市町村の数

■目標設定 H20：5市町村 ⇒ H25：10市町村

【考え方】

最終的には全市町村における実施が望ましいが、当面は倍増を目標に設定

■進捗状況 H21：7市町村 ⇒ H22：7市町村 ⇒ H23：7市町村 ⇒ H24：9市町村

【結果】

実施市町村：仙台市，石巻市，名取市，亶理町，山元町，美里町

【H24より】栗原市，大崎市，松島町

評価指標 3 日本語講座開設数

■指標説明

県内で開設されている日本語講座や日本語教室の数

■目標設定 H20：25講座 ⇒ H25：30講座

【考え方】

それまで8市5町で日本語講座が開設されていたが、人口の多い市部には最低1講座は必要と考えられることから、まだ開設されていない5市における開設を目標に設定

■進捗状況 H21：27講座 ⇒ H22：26講座 ⇒ H23：27講座 ⇒ H24：28講座

【結果】

実施市町村：

仙台市（13講座）、石巻市、気仙沼市、名取市、角田市、岩沼市、登米市、栗原市、大崎市、川崎町、亘理町、利府町、松島町、七ヶ浜町、美里町

【H24より】南三陸町

評価指標 4 外国人相談対応体制を整備している市町村数

■指標説明

外国人からの外国語相談に対応できる体制を整備している県内の市町村の数

■目標設定 H20：4市町村 ⇒ H25：8市町村

【考え方】

それまでの4市町村から倍増を目標に設定

■進捗状況 H21：4市町村 ⇒ H22：5市町村 ⇒ H23：5市町村 ⇒ H24：5市町村

【結果】

実施市町村：仙台市、石巻市、気仙沼市、川崎町、登米市

評価指標 5 永住者の求職者に対する就職率

■指標説明

外国人永住者（一般に日本語能力が高い）からの県内ハローワークにおける「新規求職受理件数」に対する「就職件数」の割合

■目標設定 H20 : 26.8% ⇒ H25 : 43.0%

【考え方】

H20（H19実績）から、それまでの過去5年間の伸び率（+8%）を倍増させた率（+16%）を加算し目標に設定

■進捗状況 H21 : 17.2% ⇒ H22 : 22.1% ⇒ H23 : 21.7%
⇒ H24 : 33.2%

【結果】

H24（H23実績）の外国人永住者の就職率は、33.2%と、前年度に比べ11.5ポイントの上昇

平成24年度多文化共生社会の形成の推進に関して講じた施策
(多文化共生社会の形成の推進に関する条例第21条に基づく報告)

平成25年6月

【編集】 宮城県経済商工観光部国際経済・交流課

〒980-8570 仙台市青葉区本町三丁目8番1号

TEL 022-211-2972 FAX 022-268-4639

E-mail kokusai@pref.miyagi.jp

URL <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ftp-kokusai/>